

人材養成目的

人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識のみならず、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力を身につけ、異文化および自国文化に対する深い理解力を持つ、グローバル社会の中で真に活躍できる人材を養成します。

比較文化学類

College of Comparative Culture

学士(比較文化)

■ Bachelor of Arts

人材養成目的

人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、それを通じてひとつの学問分野に閉ざされることのない、開かれた知と批判的思考力を持った人材を育成します。また、国際的なコミュニケーション能力によって、グローバル化する社会に求められる問題解決能力と交渉力を備えた人材を育成します。

求める人材

- 自らの問題意識を出発点として、さまざまな学問領域に関心を寄せながら、文化・社会について広く柔軟に学ぶ意欲を持つ人。
- 異文化理解に裏付けられたグローバル・コミュニケーション能力を身につけようとする人。
- 海外経験・社会経験などを通じて得た問題意識を学問的に深めたい人。

卒業後の進路

卒業生の約8割は、企業・教員・公務員など国内外で広く活躍しています。約2割は大学院に進学しています。

大学院進学 の例

■筑波大学大学院…人文社会科学研究群、生命地球科学研究群、人間総合科学研究群

■他大学大学院…東京大学、一橋大学、東京外国語大学、北海道大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学、大阪教育大学、早稲田大学、プリンスエドワード島大学、啓明大学校

就職先 の例

企業・団体

■マスコミ・出版…NHK、共同通信社、日本テレビ、福井放送、東北新社、角川書店、新潮社、中央出版、宝島社、帝国書院、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、中国新聞社、信濃毎日新聞、電通アドギア、博報堂プロダクツ、第一法規

■金融・保険…三菱東京UFJ信託銀行、常陽銀行、筑波銀行、福島銀行、群馬銀行、愛媛銀行、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、三井生命、アメリカンファミリー生命保険

■商社・流通…三菱商事ファッション、イオンリテール、野村総研、住友商事、ローソン、三越伊勢丹、ZOZO、東京流通センター、住友倉庫、伊藤忠エネクス

■運輸・旅行…日本航空、全日本空輸、東日本旅客鉄道(JR東日本)、富士急行、首都高速道路、クラブツーリズム、エイチ・アイ・エス、プリンスホテル、日本交通

■情報・通信…日本IBM、楽天、NTTドコモ、NTT東日本、日本郵便、日本マイクロソフト

■サービス…ニチイ学館、ユーキャン、リクルートジョブズ、サンリオ

■食品…味の素ゼネラルフーズ、江崎グリコ、カルビー、サントリーホールディングス

■機械・電機…大林組、川崎重工業、三井住友建設、スズキ、日立建機、JFEスチール、JX日鉱日石エネルギー、ダイキン、パナソニック

■医薬品…アステラス製薬、塩野義製薬、ジョンソン・エンド・ジョンソン、富山めぐみ製薬

学校教員

■公立…茨城県、埼玉県、静岡県、山梨県、愛媛県、鹿児島県

官庁

外務省、財務省、海上自衛隊、東京消防庁

自治体

東京都、茨城県、埼玉県、千葉県、静岡県、長野県、富山県、群馬県、鹿児島県、長崎県、いわき市、石岡市、ひたちなか市、つくば市、守谷市、流山市、横浜市、神戸市、松江市

他

東京大学、北海道大学、広島大学、東洋大学、全国共済農業共同組合連合会(JA共済連)、日本芸術文化振興会(国立劇場)、日本新聞協会

教育の質の保証と改善の方策

■すべての授業に関して学生による授業評価アンケートを行い、これを確実に担当教員にフィードバックし、授業改善に反映させます。

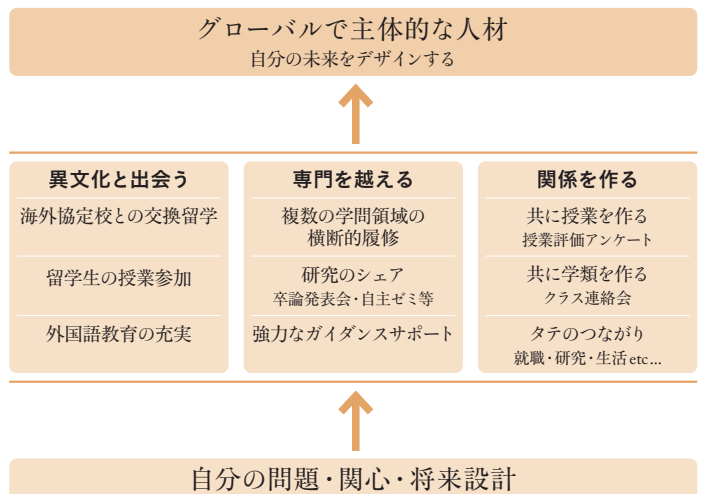
■卒業論文の作成の過程を大切に、卒業論文中間発表会、口頭試問などを充実させることで、卒業後のキャリアに資する実質ある指導を行います。

■大学院留学生TAや卒業生社会人が授業づくりに参画することを推奨し、開かれた学習環境の構築に取り組むとともに、これを通じて授業の刷新に努めます。

■学類生がカリキュラムを最大限に活用できるよう、各学年ごとにきめ細かいガイダンスを実施します。

■担任制度を充実させ、必要に応じた担任の適切な助言を通じて、健やかで実質ある学習をサポートします。

教育の質の保証と育成する人材像



学士（比較文化）

Bachelor of Arts

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(比較文化)の学位を授与します。

■ ひとつの学問領域に留まることのない、複眼的な知力と逞しい問題解決能力を備えている。

(関連するコンピテンス:文化事象の理解力、文化的課題への対応力)

■ 文献資料のみならず多様なメディアやフィールドを広く調査し、批判的に情報を解釈する能力を備えている。

(関連するコンピテンス:文化事象の理解力、文化的現象の分析力)

■ 独創的な着眼点、徹底した資料収集、堅実で粘り強い文献読解、卓抜な構成力、論理の一貫性などを有した、高度な論文執筆能力を備えている。

(関連するコンピテンス:文化事象の理解力、文化的現象の分析力)

■ 自国の文化伝統を踏まえつつ、グローバル化する社会の文化的多様性を理解する姿勢と教養を備えている。

(関連するコンピテンス:文化的課題への対応力、国際的な主体性)

■ グローバル化する社会に貢献できる国際的なコミュニケーション能力を備えている。

(関連するコンピテンス:国際的なコミュニケーション能力)

■ 多様な文化的環境に主体的に働きかけ、チームワークのもとで活動を遂行する能力を備えている。

(関連するコンピテンス:国際的なコミュニケーション能力、国際的な主体性)

教育課程編成・実施の方針

学士(比較文化)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

複数の学問領域を横断的に履修できる学際的で柔軟性に富む編成に留意し、学生ひとりひとりの問題意識とキャリア展望に対応する教育課程の構築を心がけます。また、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を身につけるために、授業を含めた様々な機会を数多く提供するように努めます。

順次性に関する方針

■ 1年次は主として入門的・概論的な科目や、共通科目の外国語を必修としています。各領域では文献研究やフィールドワークなどの前提となる学問の基礎的方法を身につける6領域に関する比較文化研究、概括的な知識を学ぶ概論科目を提供し、複数の学問の基礎知識を広く身につけることを目指します。1年次末に、1年次ガイダンスを実施の上、1年次研究計画案を提出させ、2年次以降の専門的な学習についての指導を行います。

■ 2年次は興味のあるいくつかの領域の専門導入基礎演習および専門科目を履修するとともに、今日のグローバル社会に求められる国際コミュニケーション能力を確実に身に付けるために、中級の専門外国語科目を学びます。また2年次後半では、より専門的に深く学ぶために、どの領域・コースに属すかについて考えます。2年次ガイダン

を実施し、2年次研究計画案を提出させ、領域やコースの選定に向けての指導を行います。

■3年次は領域・コースの所属を確定し、そこで提供されている専門科目や卒業論文基礎演習を本格的に履修します。3年次ガイダンスを実施し、3年次研究計画案を提出させ、教員との緊密な交流の中で卒業論文に向けて自分自身の研究課題を深めていきます。引き続き上級の専門外国語を履修します。

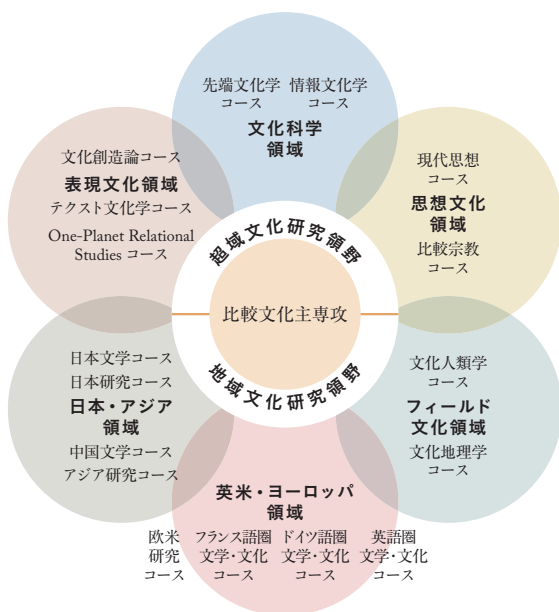
■4年次は卒業論文の制作を軸に、一つのテーマを巡って様々な文献の精読、フィールドワーク、ディスカッションを行います。教員との議論を通じて論理性を鍛えてい

きます。卒業論文中間発表会を実施し、卒業論文の進捗状況についてアセスメントと指導を行います。

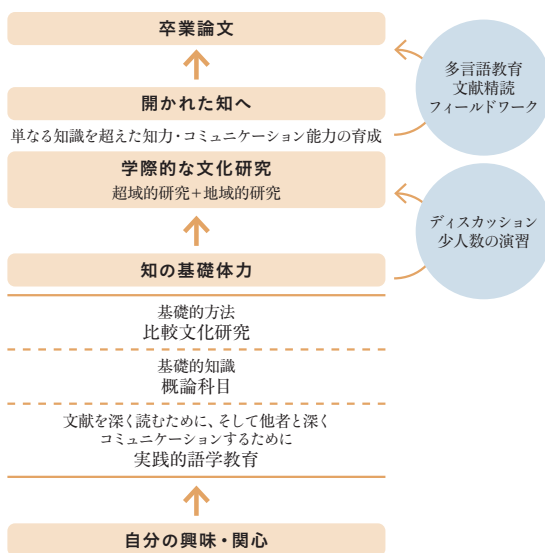
実施に関する方針

「地域文化研究」、「超域文化研究」という2つの「領野」の下に、複数の地域や学問分野を包含した6領域を設定し、学際的な文化研究の履修が可能となるように配慮するとともに、単なる知識の修得を超えた知力・コミュニケーション能力の育成と、演習形式の授業を重視します。外国語では、英語はディベートや論文指導も含む多様な内容の授業を展開し、英語以外にドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語に加え、朝鮮語、さらにはギリシャ語、

比較文化学類のコスモス



育成する能力とカリキュラムの構造



学士（比較文化）

Bachelor of Arts

ラテン語、インド古典語など、多数の外国語の授業を提供し、少人数での実践的な語学教育を行います。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施します。

4年次末には、単位取得状況、卒業論文口頭試問の結果、ならびに各コンピテンスが身についているかを学修成果として総合的に評価し、卒業判定を行います。

特色

「国際性の日常化」を重視し、大学院留学生がTAとして積極的に授業に参画します。さらに正規カリキュラムにはない言語を大学院留学生TA主導の課外活動として修得することが可能です。これらを含む留学生との交流の場が豊富に設けられます。